

令和7(2025)年4月開校

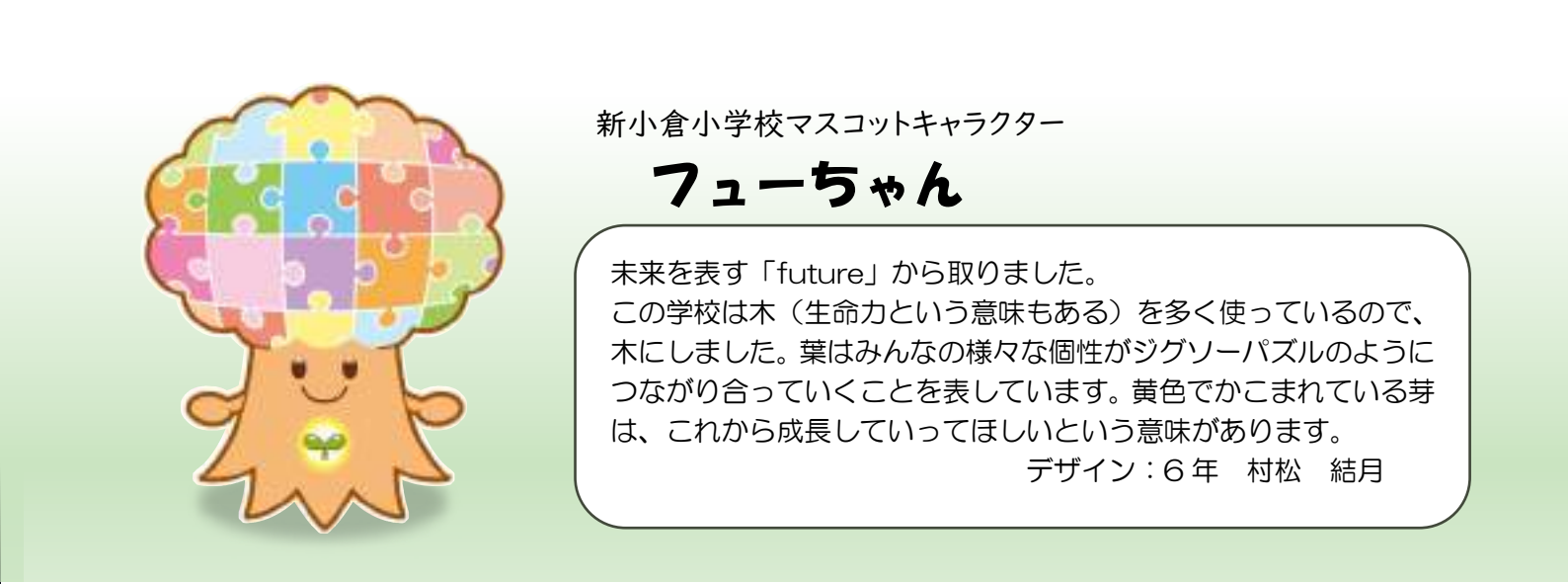
川崎市立 新小倉小学校

開校記念誌



川崎市
115
校目の「新小倉小学校」開校





挨拶

校長 田中 康子

令和7年4月。本校は川崎市の115校目の小学校として、児童数535名、教職員45名で開校いたしました。「新しい自分をつくる 未来をつくる」を学校教育目標とし、自らの可能性を発揮し、多様な他者と協働しながらよりよい人生を切り拓き、未来の創り手となる力を育んでいく教育活動を進めております。

校舎は、環境に配慮し、最新の教育環境を整え、地域防災の拠点となる設備を備えています。また、将来の児童数増にも対応できるように工夫が凝らされています。さまざまな形態の学習に対応することができる空間もあり、子どもたちの充実した学びにつながっています。

最新の教育環境の有効な活用推進を図るため、本校は、今年、文部科学省のリーディングDXスクール事業の指定校となりました。校務DXを推進し、職員室にフリーアドレスを導入しました。また、GIGA端末、クラウドを活用した新しい授業実践を創出し、展開を図っています。

通学区域は、幸区新小倉2番の集合住宅のみという特徴をもつ本校です。古くから人を大切にする温かな小倉のまちや新産業の創出をめざす新川崎地区等の地域とつながり、協働しながら、子どもたちの成長を支援していきたいと考えております。今後ともお力添えをいただけますようお願いいたします。

結びとなりますが、新小倉小学校の開校にあたり、ご尽力をいただきましたすべての皆様へ深く感謝申し上げます。



祝辞

川崎市市長 福田 紀彦

川崎市立新小倉小学校が、川崎市制100周年目の年に当たる令和7年4月に開校いたしましたことを心よりお祝い申し上げます。

本校は、保護者や地域の皆様からの熱い期待と、多くの方々の御尽力の下、新たな学び舎として誕生いたしました。新小倉小学校が建つこの地域は、昭和の時代には東洋一の規模を誇る「新鶴見操車場」があり、京浜工業地帯の発展と全国をつなぐ物流の要として大きな役割を果たしてまいりました。現在では、先端技術の研究開発や産業の創出を推進する「新川崎地区」の一角として、本市の将来を担う重要な地域へと発展しております。

この可能性に満ちあふれたまちに、新たに開校した新小倉小学校では、ICT機器を積極的に活用した新しい学びや、地域と連携した学びが展開され、急速に変化する社会を生き抜くための資質・能力を育む教育活動が日々実践されていると伺っております。その主体性と協働性を大切にした校風のもとで、子どもたちの発案から始まった、SHISHAMO Gt. V o宮崎朝子さんと一緒に取り組んだ校歌作成など、川崎らしい新たな実践が生まれています。

新小倉小学校の子どもたちには、他者との違いを自然に受け入れ、それぞれの「違い」を「良さ」として活かしあうような、多様性のまち川崎にふさわしい大人に育ってほしいと願っております。

結びに、新小倉小学校が、児童・保護者・地域の皆様とともに、学校としての年輪を重ね、大きく成長・発展されますことをお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝辞

川崎市議会議員 原 典之

開校記念式典をめでたく迎えられました、川崎市立新小倉小学校の関係者の皆様に心からお祝いを申し上げます。

地域の皆様が長年待ち望んでこられた新小倉小学校の開校は、人口155万人の都市へと発展を遂げた川崎市の更なる成長を象徴するものであり、市議会としても、新川崎地区に新たな学びの場が誕生したことを、大変喜ばしく感じております。

情報化やグローバル化が進展する現代社会において、時代は日々めまぐるしく変化しておりますが、いかなる時代にあっても、明日の日本を支え、夢と希望に満ちた未来を築いていくのは子どもたちであり、教育はまさに社会の礎であります。地域社会の宝である子どもたちにとって、この素晴らしい設備を備えた新たな学び舎での一日一日が、かけがえのない経験となり、将来に向かって力強く歩みを進めていくための確かな基盤となることを、心より願っております。

また、小学校は、地域に根ざした学びと交流の拠点として、地域の皆様に親しまれながら、その発展と活力に貢献することも期待されております。

市議会といたしましても、子どもたちの笑顔があふれるまちづくりに、そして、子どもたちが安心して過ごせる教育環境づくりに、皆様とともに全力で取り組んでまいります。

結びに、新小倉小学校の限らない御発展と、関係各位の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝辞

川崎市教育委員会教育長 落合 隆

川崎市立新小倉小学校が、令和7年4月に開校し、令和7年12月、開校記念式典が挙行されることを、心よりお祝い申し上げます。

新小倉小学校は、多様な学びの創出や地域コミュニティの核としての機能、環境への配慮といった特色を兼ね備えた、まさに新しい時代にふさわしい学び舎として誕生いたしました。

本市では、第2次教育振興基本計画「かわさき教育プラン」に基づく教育活動、教育施策を推進しており、「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」という基本理念の下、基本目標を「自主・自立」「共生・協働」と掲げ、子どもたちの将来の社会的な自立に必要な能力・態度及び共生・協働の精神の育成を進めております。

教育プランの基本理念・基本目標を念頭として、新小倉小学校では、学校教育目標を「新しい自分をつくる 未来をつくる」とし、子どもたちが安心して学び、変化の激しいこれからの社会を、主体的に生きていく力を身に付けていけるよう、午前5時間の特色ある教育課程の実践をはじめ、ICT環境を生かした学びの推進、さらには地域連携やアントレプレナーシップ教育の展開など、次世代を見据えた多様な教育実践に果敢に取り組まれています。これらの取組が、子どもたちが今と未来を豊かに生きる力を育むための、かけがえのない土台となることを期待しております。

結びに、新小倉小学校の更なる飛躍と限らない発展、また諸先生方、保護者、地域の皆様方の更なる御活躍、御健勝をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

新小倉小学校ができるまで

平成24(2012)年1月の基本協定締結時に、大規模共同住宅の建設が進む幸区新川崎地区に、小学校の新設が決定されました。当初は、平成29年度、30年度の開校を予定し、校舎の整備を2段階に分けて行うことなどを想定していましたが、地域の開発動向の状況的变化等を踏まえて、開校時期が段階的に見直されました。そして、令和2年5月の基本構想・基本計画見直し時に令和7年度開校の計画が決定されました。

平成23年度 基本協定締結

平成24年度 基本構想策定

平成25年度 基本計画検討委員会(計4回開催)

令和2年度 用地取得、基本構想基本計画見直し

令和3年度 基本設計完了

令和4年度 実施設計着手

令和5年度 建築工事・通学区域検討・校名検討

令和6年度 開校準備担当設置、学校説明会等
竣工式内覧会・学校施設見学会

令和7年度 4月開校

4月7日 開校式・始業式、入学式



令和5.12.2



令和6.2.29



令和6.12.3



令和6.5.10



令和7.1.28

「新小倉小学校」の名称について

学校の名称は「学校設置場所の地名に基づくもの」「周辺の歴史的な背景を考慮する」という二つの点を踏まえて検討されました。

令和5年度に、日吉地区に居住する方々を対象に学校名の意見募集を行いました。その結果を踏まえて、主に通学区域と見込まれる小倉小学校と東小倉小学校の児童を対象に、アンケートを実施しました。結果として「新小倉小学校」が最も多く、学校名として決定しました。



令和5.5.28



新小倉小学校の学び

情報化やグローバル化など、社会が急速に変化していく予測困難で複雑な時代を、子どもたちが将来を展望しながら主体的に生きていくためには、「新しい時代を主体的に乗り越え、豊かな人生を切り拓く力」、「自分のよさや可能性を認め、多様性を尊重し、協働しながら学び高めあう力」を身に付けていくことが大切だと考えています。

新小倉小学校の開校にあたっては、このような力の育成に加え、次に示す 6 つの点を考慮して学校教育目標を設定しました。

- ・市制 101 年目の年に**新**たに開校する学校
- ・155 万人を擁する発展都市川崎の**新**たな開発地区
- ・世界に羽ばたく**新**技術を抱え飛躍する**新**川崎地域
- ・環境に配慮し学習環境を整えた**新**校舎
- ・**新**しい時代に求められる資質・能力の育成
- ・川崎が目指す**新**しい教育の姿

学校教育目標

新しい自分をつくる 未来をつくる

学ぶことで変わり新しい自分を見つけていく。学校生活を通じて、新小倉小学校の一人ひとりの児童が、多様な他者と協働しながら、変化に主体的に向き合い、社会に積極的に関わる態度を身に付けていく。そして、自らの可能性を広く見出し、未来の創り手となる力を育んでいく。本校の学校教育目標にはそのような思いを込めています。

「主体性」と「協働性」を育みながら、子どもたちが安心して学び、新しい時代を生きていく力を身に付けていけるよう、豊かな教育活動の推進に努めていきます。

学校教育目標の実現に向けて

学校教育目標を具現化していくために、次のように「目指す児童の姿」を定め、児童・保護者と教職員で共有しながら教育活動を進めていきます。

各教科学習はもちろんのこと、教育活動全体を通じて、関連する資質・能力の育成を図っていきます。保護者の皆様や地域の皆様とも連携しながら、協力して子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。



新小倉小学校の教育の重点

確かな学力を育む 学習活動の充実

- 興味関心やつながりを重視した学習活動の推進
- 協働的な学びの推進と学びを生かす力の育成
- 一人ひとりに応じた支援の充実

創意工夫ある 教育課程の編成

- 新川崎・創造のもりなどと連携し、地域の特色を生かした学習活動を展開
- 多様性を学び、広い視野を育む多文化共生教育の充実
- 教育設備を生かしたICTの活用と情報教育の充実

人権尊重教育の 充実

- 「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める力」の育成
- 一人ひとりの児童をありのまま受けとめ、大切にする学校づくり

新小倉小学校の特色ある学び

学校の近隣には、新しい技術や産業を創造する研究開発拠点である「新川崎・創造のもり」があり、その周辺にも多くの企業や教育研究機関などが集まっています。また、自然が残る夢見ヶ崎動物公園など魅力的な教育環境があります。

新小倉小学校では、学校教育目標を中心として、地域や社会とつながり、様々な人とつながる体験的な活動を重視しながら、教育環境を積極的に生かした特色のある学びを進めています。

GIGA 端末の活用

知識・情報・技術が加速度を増して進展する社会にあって、私たちの生活も、あらゆる場面で ICT を活用することが当たり前になっています。

新小倉小学校では、情報活用能力をこれからの社会を生きる子どもたちにとって重要な力と位置付け、各教科学習のみならず学校生活の様々な場面で ICT の積極的な活用を進めています。

※川崎市総合教育センター令和7年度「かわさきGIGAスクール構想 推進協力校」

※文部科学省2025年度「リーディングDXスクール指定校」

地域や社会とつながる学習活動

新川崎・創造のもりや近隣の企業等と連携して、最新の技術を生み出している企業等を見学したり、専門家の方をゲストティーチャーとしてお招きしたりするなど、学校の枠を広げた体験的な学びを積極的に進めています。

地域や社会とつながり、様々な人とつながっていく中で、新たな知識や考え方を学んでいく経験は、一人ひとりのキャリア形成に関する意識の向上にもつながっていきます。

新しい自分をつくる 未来をつくる

人権尊重教育 の充実

多くの人とかかわり、ともに活動する中で、子どもたちは多様な経験を積み重ねていき

教育活動全体を通じて「自分の大切さを認める力」の育成を目

他の人の立場に立って考える力、自分の考えを伝えて共感的に理解実態に応じながら指導・支援を行

動する中で、子どもたちは多様な経験を積み重ねていき

大切さとともに他の人指していきます。

、お互いを認め合う力、し合う力など、児童のっていきます。

多文化共生教育の推進

グローバル化が急速に進み、価値観が増々多様化していく社会の中において、多様性を尊重する態度の育成が求められています。

世界の国々に目を向けて、多様な文化に触れるなどの経験を通し、様々な違いや共通点を知り、自分や他者とのつながりについて学ぶ機会を作っていきます。

多様な文化や様々な考え方などを知り、多面的な見方や考え方を育み、お互いを尊重する力を育んでいきます。

校章・校旗

校 章



同じ幸区内の川崎市立川崎総合科学高等学校デザイン科に校章案の募集を行い、その案を基に決定しました。

＜校章に込めた思い＞

学校づくりの基本理念である「地域とともに、ひとや環境にやさしい未来を創る次世代小学校」から着想を得て、地域全体のつながりを線の重なりで表現しています。

右に線が伸びていくデザインには、子どもたちや教職員、地域の皆様との明るい未来への懸け橋になるようにという思いを込めています。既存の校章のイメージにとらわれないシンプルかつ斬新なデザインにしました。



新小倉小学校の学校生活

本校では、より充実した教育活動を目指して午前5時間授業の時程を採用しています。授業時間数に一定のゆとりを確保しながら集中しやすい時間帯に多く授業を実施して、確かな学力の育成を目指しています。

週2回のロング昼休みを設定し多様な活動機会を設定するとともに、時期や行事等によって午前4時間授業の時程も併用して、教育課程を柔軟に実施しています。

通常の時程

		月	火	水	木	金	
5時間授業		1・2・3年	1・2年	全学年	1・2年	1・2・3年	
6時間授業		4・5・6年	3・4・5・6年		3・4・5・6年	(4)・5・6年	
8:00～8:20		登 校					
8:20～8:30		朝の会・学習準備		朝会 / 朝の会	朝の会・学習準備		
1	8:30 9:15	1 時間目					
2	9:15 10:00	2 時間目					
3	10:00 10:45	3 時間目					
10:45～11:05		中 休 み					
4	11:05 11:50	4 時間目					
5	11:50 12:35	5 時間目					
12:35～13:20		給 食					
13:20～13:35		ロング昼休み	清 掃	ロング昼休み (月 1 回・全校集会)	清 掃	帰りの会 / 簡単清掃	
13:35～13:45			帰りの会 / 昼休み		帰りの会 / 昼休み	委員会 (5・6年) 13:35～14:20	
13:45～13:50			帰りの会 / 簡単清掃		帰りの会 / 簡単清掃		
6	13:50 14:35	4・5・6年	3・4・5・6年		3・4・5・6年	クラブ (4・5・6年) 13:35～14:40	
14:35～14:45		帰りの会	帰りの会		帰りの会		
下校時刻	5校時	13:50	13:50	13:50	13:50	13:35	
	6校時	14:45	14:45		14:45	委14:25・ク14:45	



新小倉小学校の教育環境



「地域とともに、ひとや環境にやさしい未来を創る次世代小学校」を学校づくりの基本理念として、施設設計を行っています。次のようなコンセプトを設定して、環境への配慮や地域コミュニティの核、また次世代を創造する学校づくりを目指して様々な技術を取り入れています。

学びをつなぐ

シームレスな学習環境を整備し、児童の多様性をうけとめる場

地域とつなぐ

学校、地域、産業が一体となる地域コミュニティの核

未来へつなぐ

未来を見据えて環境に配慮した次世代エコスクール

新小倉小学校の施設の特徴

GIGA スクール構想への対応

- ・普通教室及び特別教室にプロジェクターを整備し、GIGA 端末を有効に活用した学習活動を推進

活動をつなぐゾーニング

- ・多様な学習空間を整備するとともに各所の見通しを確保し、複数の場所にアクセスしやすい教室配置

地域開放エリアの充実

- ・地域利用しやすい配置とし、学校と地域の幅広い活動に対応

防災機能の充実

- ・応急給水拠点としての役割やマンホールトイレなどの整備
- ・太陽光パネルや蓄電池、発電機の利用など避難所としての活用に備えた機能
- ・災害時でも利用できる体育館空調の整備

環境負荷の低減

- ・体育館の屋根からの雨水を貯留・ろ過し、トイレの洗浄水として利用

高断熱・高気密化

- ・屋根や外壁、サッシなど外気に面する部分の高断熱・高気密化を図り、空調負荷を低減

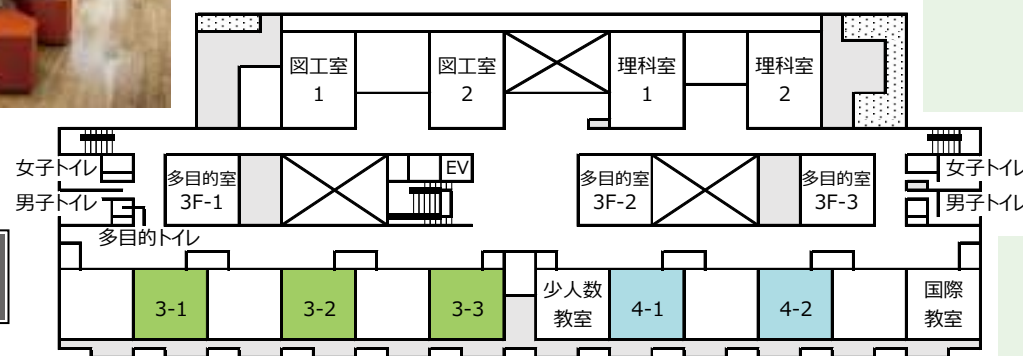
緑豊かなアプローチ

- ・屋上緑化や常時開放する歩行者空間を設置



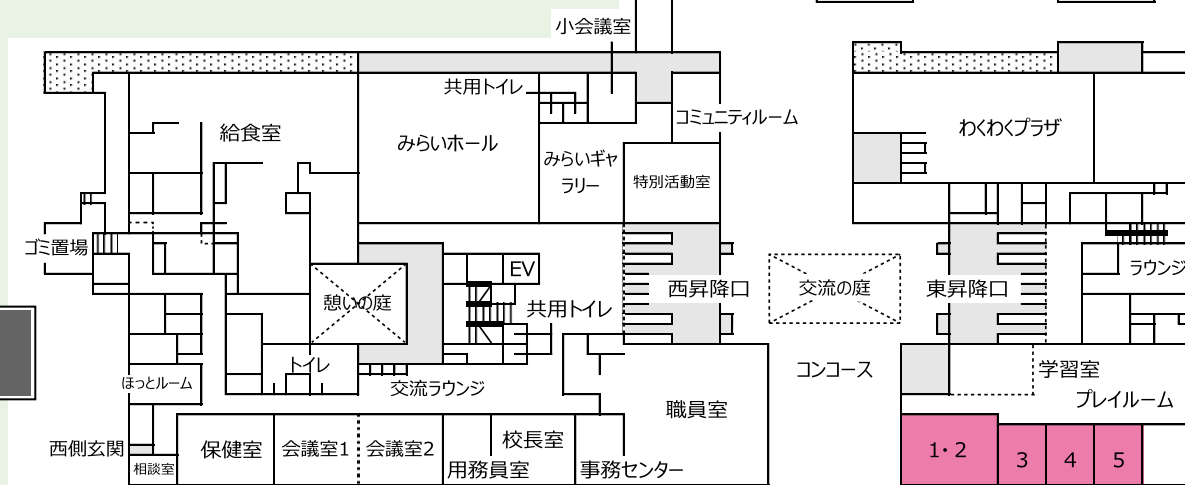
オープンスペース

3階



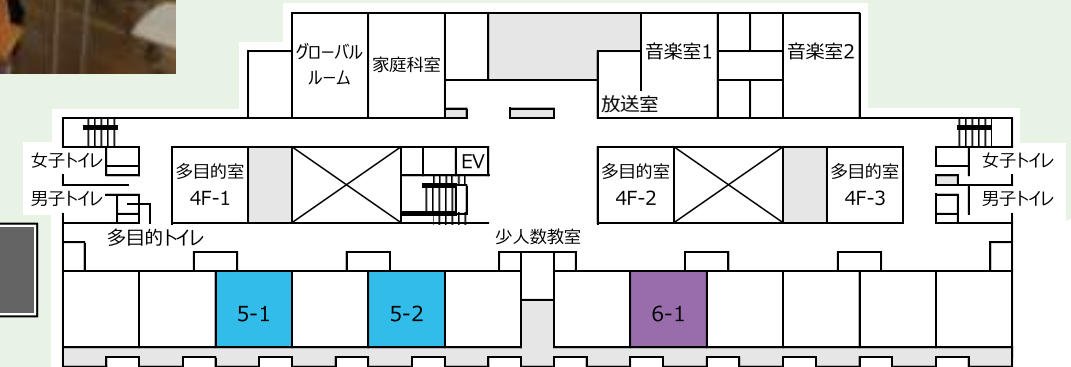
アリーナ（体育館）

1階



グローバルルーム

4階

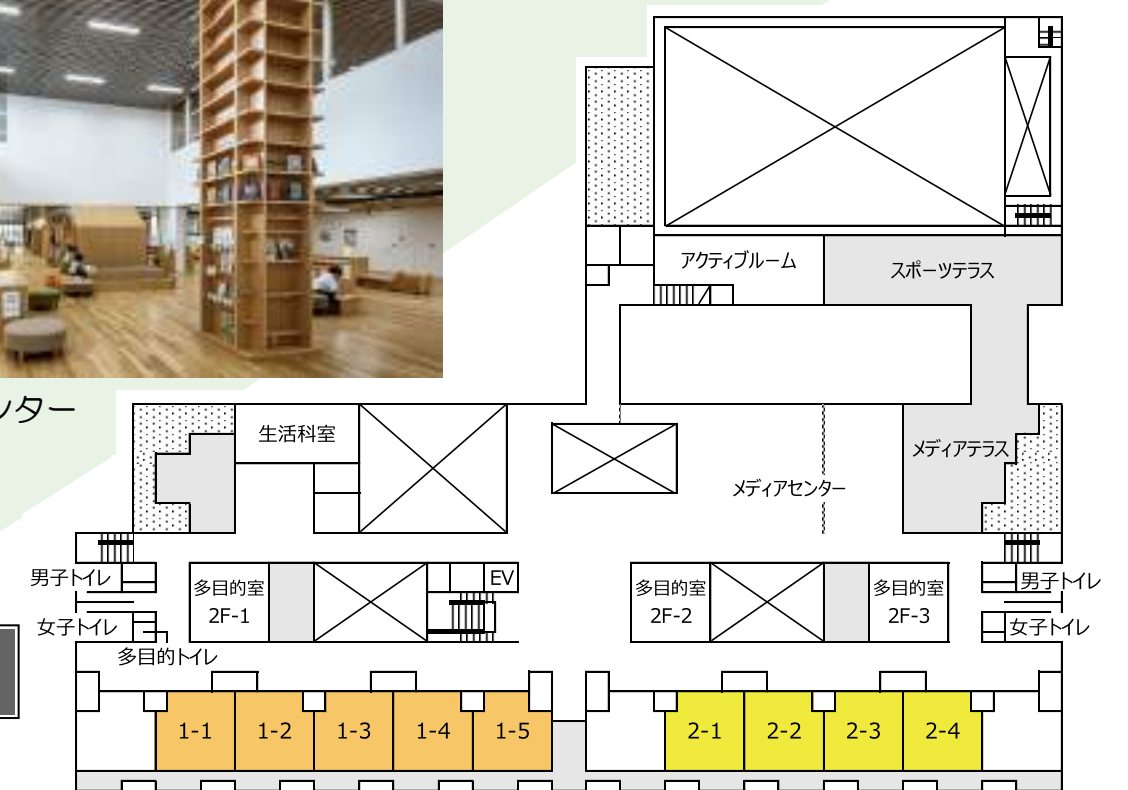


屋上庭園



メディアセンター

2階



校庭から見た校舎



コンコース（昇降口前）

令和7年度の学校の様子

3 March

3.20 ●竣工式・内覧会
学校施設見学会



校章デザイン考案者に感謝状



4.1 ●開校 初代校長 田中 康子、教職員45名着任



(令和6年度新小倉小学校開校準備担当)

4.7 ●開校式・始業式
2年～6年移籍 小倉小317名
東小倉小45名 その他11名

●入学式 162名入学
全学年児童数合計 535名
学級数 1年5学級
2年4学級
3年3学級
4年2学級
5年2学級
6年1学級
学習室3学級



4.8 ●登下校安全見守り(1年)



4.9 ●学校たんけん(1年)



4.18 ●校内研修
慶応義塾大学教授 三木先生講演



4 April

4.22～24 ●授業参観・懇談会



4.25 ●第1回 委員会活動開始



4.22 ●交通安全教室(1年)



4.28 ●避難訓練



●第1回 代表委員会



5 May

5.23 ●校内研修
北海道教育大学准教授 川俣先生講演

5.2 ●交通安全教室(3年)



5.27 ●総合
「未来へのメロディー」
SHISHAMO Gt.Vo
宮崎さん来校1回目



5.30 ●第1回 クラブ活動



5.9 ●校内研究日



6.2～4 ●自然教室(5年)



6.18 ●全校集会

6 June



6.13 ●新体力テスト(5年)



6.19 ●鍵盤ハーモニカ
講習会(1年)



6.17 ●引き渡し訓練

6.21 ●土曜参観



●経済労働局との連携授業
(アントレプレナーシップ教育) (5・6年)



6.24
●職員研修
信州大学准教授 佐藤先生講演



6.23 ●品川水族館遠足 (2年)



6.23 ●水泳学習 開始



6.27 ●こころの劇場 (5・6年)



7 July

7.3 ●職員研修 (Google・ベネッセ)



7.8 ●芸術鑑賞教室



7.17 ●総合「未来へのメロディー」
SHISHAMO Gt.Vo 宮崎さん来校2回目



7.10 ●職員研修
(心肺蘇生法)



7.15 ●校内研究



8 August

8.22 ●職員研修
(不審者対応訓練)



9 September

9.2~3 ●修学旅行 (6年)



9.11
●出前ゴミスクール (4年)



9.29
●スーパーマーケット見学 (3年)



9.18
●総合「未来へのメロディー」
SHISHAMO Gt.Vo 宮崎さん
来校3回目 校歌発表



10.10 ●前期終業式
10.15 ●後期始業式

10.18
●運動会



10 October

未来へのメロディー

～0から創るわたしたちの校歌～

②作曲家を探そう！

校歌をつくるために、まずは作曲をお願いできる方を探しました。川崎市の文化大使であり、校章をデザインしてくれた生徒さんと同じ高校出身である SHISHAMO の宮崎朝子さんに依頼の手紙を書きました。



①校歌をつくりたい！

新小倉小学校には校歌がないことに気づき、「自分たちでつくりたい！」という声が上がりました。そこから、総合的な学習の時間で校歌づくりがスタートしました。

③5. 27 宮崎さんとの初対面

初めて宮崎さんをお迎えして、これまでに調べてきた内容を発表しました。「ぜひ一緒に校歌をつくってほしい」という思いを直接伝えました。宮崎さんからは「今の新小倉」「これからの新小倉」に込めたい言葉を集めるとよいと大切なアドバイスをいただきました。



⑤7. 17 言葉を宮崎さんへ

2回目の対談では、みんなで決めた8つの言葉を宮崎さんに発表しました。それぞれの言葉に込めた思いを話して、自分たちの気持ちをしっかり伝え言葉を託しました。



私たちの思いや願いを込めた8つの言葉

1 新小倉

新小倉小学校の一員という自覚や帰属感を高める。誰一人取り残さないという思い。

5 虹色のパズル

「虹色」は一人一人の個性を、「パズル」は今一つ一つのピースでも、これから新小倉小学校として一つに繋がっていくという思い。

2 自分をつくる

学校教育目標を大切にしたいため。自分らしさや個性を大切に。よりよい自分へと成長していく気持ち。

6 新たな絆

私たちは様々な学校から集まって出会い、力を合わせて新小倉小学校をつくっている。これからも学校で出会った仲間と新しい絆を育んでいきたいという願い。

3 未来をつくる

学校教育目標を大切にしたいため。みんなで協力し、新しい未来を自分たちの手で切り開いていくという思い。

7 とともに歩む

みんなで力を合わせて未来へ進んでいくという思い。一人ではできないことも、仲間と支え合いながら歩いていくことで、新しい学校をよりよくしていきたいという願い。

4 虹色のピース

「虹色」は一人一人の個性を、「ピース」はその個性がまとまっていくことを表している。また「Peace」には平和の意味もあり、みんなが仲良く穏やかに過ごせる学校であってほしいという願い。

8 バトンを繋ぐ

バトンには私たちの思い、責任、経験、歴史などがこもっていて、そのバトンが次の世代、そして未来に大切に繋がってほしいという願い。

④歌詞に入りたい言葉を決める

5・6年生で多くの言葉を出し合い、全校にもアンケートを取りました。その後、6年生で何度も話し合いを重ねて、校歌に込める8つの言葉を決めました。



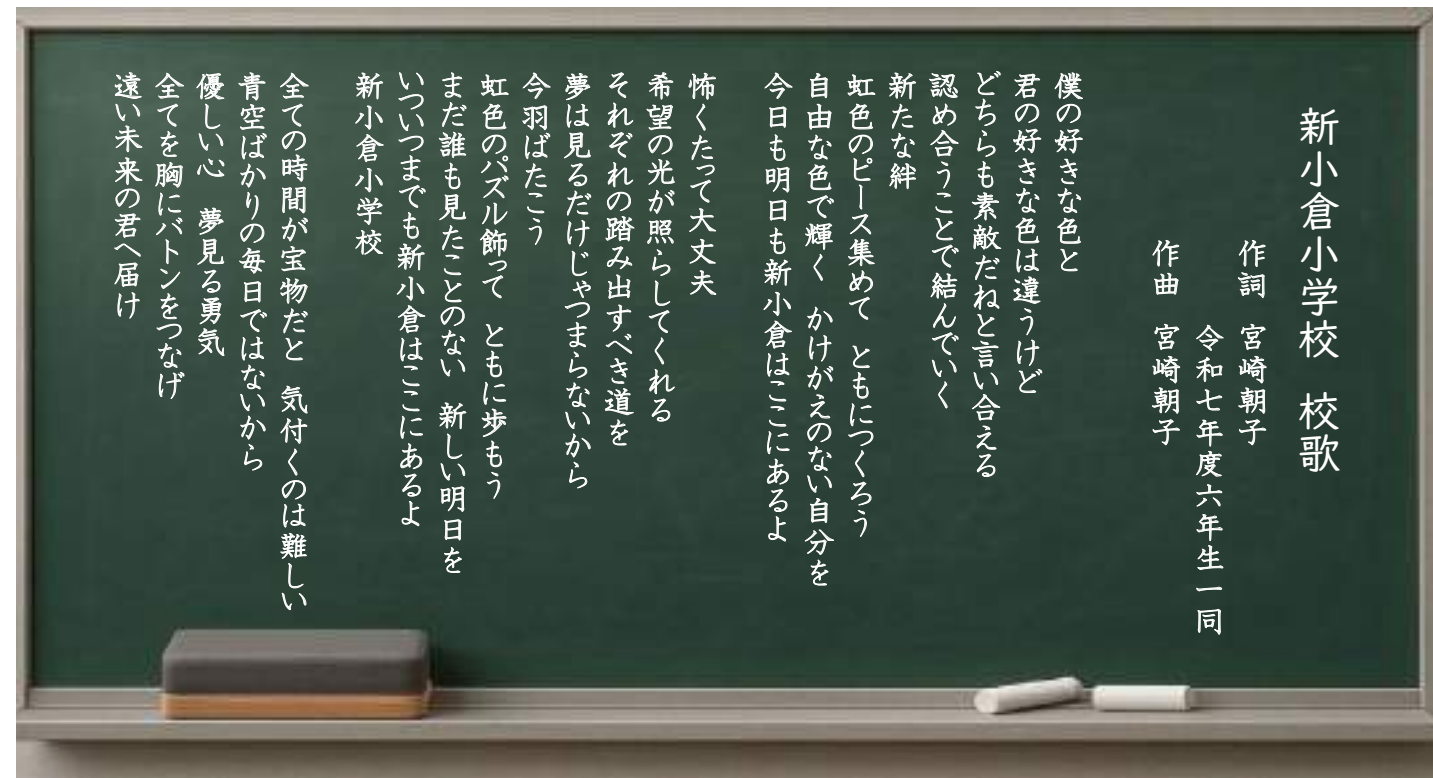
⑥9. 18 校歌との出会い

3回目の対談では、ついに完成した校歌を初めて聴きました。宮崎さんから、曲に込めた思いや作曲の工夫についてお話を伺い、感動の瞬間を迎えました。

⑦開校記念式典に向けて

6年生が全校集会で下級生に向けて初めて校歌を披露しました。そこから式典に向けて、全校での練習が始まりました。





SHISHAMO Gt. Vo 宮崎朝子さんからのメッセージ

川崎で生まれ育った私が、川崎の新しい小学校の校歌を制作できるなんて、本当に嬉しいです。そして何よりも児童の皆さんと共に制作できたことが素敵な思い出となっています。皆が主体性を持ってひとつひとつのことに真摯に向き合い考えていく姿に、とても感動しました。歌詞に入っている言葉は、いくつか児童の皆さんが考えてくれたものです。児童の皆さん一人一人が、自分たちが通うこの新小倉小学校のこと、そして未来の新小倉小学校のことを大切に思う気持ちが込められています。皆で作ったこの校歌が、長く永く歌われますように。



校歌づくりの学習を通して ～子どもたちの姿から～



「校歌をつくりたい」という小さな声から始まった取組は、学校全体を巻き込みながら、大きな学びへと発展していきました。子どもたちは、校歌づくりを通して一人ひとりが考え、仲間と語り合い、思いを形にしていきました。話し合いの場では、自分の考えをまっすぐに伝える姿、仲間の意見を受け止めながらよりよい答えを見いだそうとする姿が見られ、一人ひとりの中に「自分をつくる」力の育ちが感じられました。活動を重ねる中で、子どもたちの心の中には、学校や地域への愛着が少しずつ、そして深く根づいていきました。悩み、考え抜いた8つの言葉を宮崎さんに託した瞬間には、「未来をつくる」まっすぐなまなざしが輝いていました。

宮崎さんが、初めて校歌を届けてくれた時、子どもたちは緊張し、集中しながら聴き入っていました。聴き終わると音楽室は大きな拍手に包まれ、中には涙を流している子もいました。宮崎さんは校歌に込めた思いを直接語りかけてくださり、子どもたちは、自分たちの心が届いて形になった喜びを感じていました。「みんなの言葉があったからこそできた、一緒につくった校歌です」という言葉に、子どもたちは誇らしく晴れやかな表情を浮かべていました。新小倉小学校の「今」と「未来」を考えながら、子どもたちと宮崎さんの想いがつながって生まれた校歌です。これから、そして遠い未来まで、心を込めて大切に歌い継いでいってほしいと願っています。

3組 若林 仰大 2組 田中 三香子 1組 高田 沙紀 5組 高山 将太 4組 福澤 沙織 1年	2年 1組 中島 瑞理 4組 高宮 慎平 2組 奥田 哲史 3組 古尾谷 和音	3年 1組 齋藤 照哉 3組 田中 芽唯 2組 石田 こはる
学習室 学習室 岡田 亜希 学習室 本多 茂光 学習室 前田 久美 学習室 鈴木 響	5年 5年2組 橋本 広平 5年1組 西條 愛 6年 6年1組 豊沼 良輔	4年 2組 田村 露那 1組 島田 雄紀
チャレンジワークス 実習員 川本 律子 就業員 泉 夢葉 就業員 山本 貴拓	校長 田中 康子 教頭 福岡 弘行 教務主任 三澤 真司 事務職員 山川 淳	支援教育コーディネーター 若本 南海子 栄養教諭 小川 聡美 国際教室 佐藤 直子 後援教諭 支援教育コーディネーター 若井 直子
学校用務員 日馬 美智子	理科専科 牟田 尚美 音楽専科 竹田 真由美 ALT ヘイズ スコット 外国語 家庭科専科 佐藤 静香 初任指導 金田 玉恵 少年歌指導 石田 一恵	理科支援員 石田 雪一 学校サポーター クローラン 悦子 学校司書 北澤 紗知子 スクールカウンセラー 小出 由佳 学校サポーター 鈴木 真理





アクセス



通学区域 「新小倉2番」 ※南加瀬中学校区
所在地 幸区新小倉2番15号
電話番号 044-588-1201

JR 南武線 矢向駅から 徒歩16分
鹿島田駅から 徒歩20分
JR 横須賀線 新川崎駅から 徒歩18分

臨港バス・市バス（最寄りバス停）
「小倉下町」 下車徒歩3分
「小倉」 下車徒歩6分

※バスは、川崎駅西口、尻手駅、矢向駅、
武蔵小杉駅東口、新川崎駅などから発着

学校ホームページ(右の2次元コードからもアクセスできます)

<https://kawasaki-edu.jp/2/114shinogura/>

協力 写真提供 (株) エスエス 株式会社サイドピークス



発行日 令和7(2025)年12月13日